

Q デジタルアーカイブはどんな時につかえばいいの？

A 琉球王国は海外の国々とどんなやりとりをしていたのか調べたい

A 私の住んでいる地域で、昔、何があったのか調べたい

A 尚真王の送った文書を読みたい

琉球王国交流史アーカイブへ！

近代沖縄史料アーカイブへ！

A 沖縄学の父、伊波普猷の関連記事を調べたい

A 100年前の今日、沖縄で何があったか知りたい

A 琉球王国の交易について知りたい

Q デジタルアーカイブはどうやって見るの？

A 以下の機器・環境を推奨します

- ・ Windows10 以降 (Microsoft Edge, Google Chrome, Firefox)
- ・ Mac OS 10.15 以降 (Safari, Google Chrome, Firefox)

*「Internet Explorer」には対応していません



スマートフォン

- ・ Android7以降 (Google Chrome)
- ・ iOS (iPhone・iPad) 13以降 (Safari)



タブレット



パソコン



QRコードの読み方 (スマートフォン、タブレット)

- ①カメラを起動して、QRコードを読み取ろう
- ②画面に表示されたURLをタップ (クリック) しよう
- ③デジタルアーカイブにアクセスできるよ！



※Youtubeへ移動します

デジタルアーカイブの概要は、県政広報番組「うまんちゅひろば」(#38 歴史にふれるデジタルアーカイブ、Youtube公開約5分)でCheck!!



つかってみよう！ふれてみよう！
 琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ
 ©沖縄県教育委員会 2022年(令和4)3月発行
 *琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブでPDF版を公開しています

<表紙画像>
 左絵図: 奉使琉球図 (沖縄県立博物館・美術館所蔵)
 左上文書: 鎌倉芳太郎筆写本『歴代宝案』1-41-01
 左下文書: 鎌倉芳太郎影印本『歴代宝案』1-02-02
 上記2件は沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵
 右上写真: 沖縄県立博物館・美術館所蔵
 右下写真: 那覇市歴史博物館所蔵
 新聞紙面: 沖縄県教育庁文化財課史料編集班所蔵



つかってみよう！ふれてみよう！
琉球王国交流史・近代沖縄史料
デジタルアーカイブ

デジタルでめぐる、琉球・沖縄

琉球王国交流史 または 近代沖縄史料

検索

URL: <https://ryuoki-archive.jp/>



check

沖縄県教育委員会

沖縄はかつて琉球とよばれ、東アジアや東南アジア諸国・地域とのさまざまな交流を通して、独自の歴史文化を発展させてきました。かつての琉球があゆんできた道のりを、残された記録から感じてみませんか？

琉球王国から沖縄県へ。明治、大正、昭和と続く激動の時代を、沖縄の人々はたくましく、しなやかに生きました。先人たちの過ごした当時の様子に、日々の新聞を通して触れてみませんか？

琉球王国交流史

『歴代宝案』をはじめとした琉球王国時代の交流の歴史を伝える資料や研究成果などを公開しています。

近代沖縄史料

沖縄戦で失われた明治から昭和戦前期の沖縄の新聞を調べることができます。

探す

琉球の国王や中国の皇帝、年代など、調べたい項目から検索することができます

探す

発行年月日や記事の見出しから新聞の検索ができます

知る

琉球の歴史を伝える交流史資料の画像・テキストデータを閲覧することができます

知る

沖縄の近代期のできごとや新聞の歴史、戦後の資料収集を紹介します

楽しむ

交流の歴史を楽しみながら学べるコラムもぞくぞく更新

楽しむ

新聞からわかる戦前の沖縄のさまざまな話題をコラムで紹介します

めぐる

沖縄・日本・中国など地域別に、主なできごとを年表で紹介

年表の中の「交流史」「近代沖縄」をクリックすると、関連する公開資料を見ることができます。

年代を併表示	中国	日本	琉球
1200	【その他】タイムーニル船成立。		
1300	1371年 中国：洪武4年 日本：建徳2年 琉球：景徳22年	【日本】権良親王、祖宗を使者として明朝に入貢する。	
1400	1372年 中国：洪武5年 日本：文中1年 琉球：景徳23年	【琉球】10.30 [9.22] 明の太祖（洪武帝）、横轍を遣わし琉球に朝貢をうながす。	
1500	【中国】明の太祖、倭寇対策として浙江・福建沿海の9ヶ所に衛を創設し、海舟660艘を建造する。		
1600	1373年 中国：洪武6年 日本：文中2年 琉球：景徳24年		

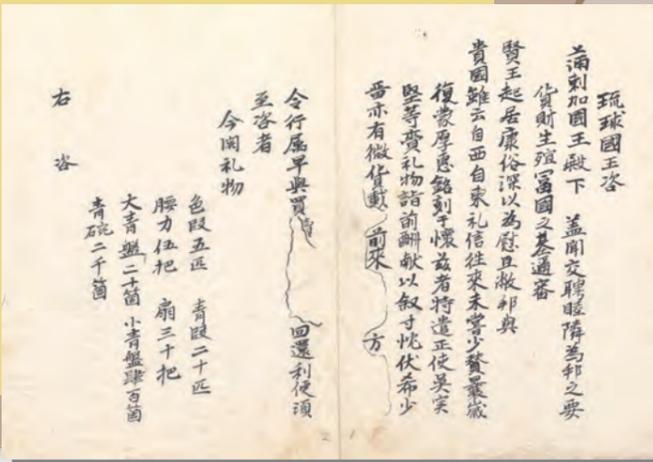
写真：沖縄県教育庁文化財課史料編集班所蔵

琉球王国交流史デジタルアーカイブ

琉球の歴史は、周辺の国々との交流の歴史だといえます。デジタルアーカイブでは琉球王国の交流や営みを知ることができるさまざまな資料を公開しています。

例えば、15～16世紀にかけての琉球は、万国津梁の鐘などで知られるように、中国・日本、そして東南アジアの各地を結び中継貿易を展開しました。この東南アジアへの渡航は、少なくとも100回以上に上ることが、『歴代宝案』の記録から分かっています。特に有力な相手の一つに交易の要衝として栄えたマラッカ王国がありました。交易を中心とした国づくりを行った琉球とマラッカは、親しい関係を築いていたことが史料から読み取れます。

また、『歴代宝案』でしか知ることのできない内容も多く、当時の状況を知るうえで貴重な記録です。



鎌倉芳太郎筆写本『歴代宝案』1-41-01



えー！

昔の航海はどれも命がけだった。
わしも一度漂流しての～…。



当時の7シ

マラッカ
満刺加

琉球

歴代宝案（訳注本）を読んでみよう！

交流をものがたる歴史資料の公開

※公開資料は順次拡充予定！

琉球の外交文書集『歴代宝案』1424～1867年 約4320件の文書を収録



歴代宝案（校訂本）

校訂本は『歴代宝案』の欠損文字などを各種写本や同時代資料等と照合し、原本（漢文）を活字化した本です。



歴代宝案（訳注本）

訳注本は『歴代宝案』の難解な漢文を漢字仮名交じりの読み下しに訳し、注釈をつけた本です。



研究成果の公開

交流史資料を用いた研究成果や関連資料などを公開しています。



公開資料については「交流史資料紹介」をご覧ください▶

テキスト
PDF

琉球国王、満刺加国王殿下に咨す。
(咨=文書の一形式)

蓋し聞く、交聘睦隣は為邦の要にして、貨財生殖は富国の基なり。適ごろ賢王の起居の康裕なるを審らかにし、深く以て慰と為す。且つ敝邦と貴国と西よりし東よりすと云うと雖も、礼信の往来、未だ嘗て少しも替らず。曩の歳復た厚恵を蒙り、懐に銘刻す。茲者特に正使吳実堅等を遣わし、礼物を齎し詣前し酬献せしめて以て寸枕を叙ぶ。伏して少留するを希う。亦た微貨有り、載装前来し殊方の土産を貿易す。煩わくは属に令行して早やかに買売を与し、風時に赶趁して回還し利便ならしめんことを。須らく咨に至るべき者なり。

今礼物を開す
(贈り物)

色段五匹 <small>(彩色の絹織物)</small>	青段二十匹 <small>(青い絹織物)</small>
腰刀五把	扇三十把
大青盤二十個 <small>(青磁の大皿)</small>	小青盤四百個 <small>(青磁の小皿)</small>
青碗二千個 <small>(青磁のお碗)</small>	

右、満刺加国に咨す

天順七年八月初四日
(1463)



歴代宝案（訳注本）1-41-01

〔掲載画像〕・鎌倉芳太郎筆写本『歴代宝案』1-41-01（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵）
・奉使琉球図（沖縄県立博物館・美術館所蔵）

